

# 令和6年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター 第7号 令和6年7月22日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



## 1. 管内生育経過

表1 生育調査結果

			7月19日調査結果						
調査地点	品種	区分	田植 (播種)日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)	
移植	田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月4日	84.3	551.5	11.5	34.8	166.0
			前年比・差	±0	97%	106%	0.0	102%	7.0
			平年比・差	-3	111%	114%	▲0.5	87%	115.6
	鹿島台 (広長)	つや姫	本年値	5月3日	79.0	459.2	10.9	38.6	4.8
			前年比・差						
			平年比・差						
南郷 (和多田沼)	金のいぶき	本年値	5月18日	81.8	516.8	11.0	32.7	4.3	
		前年比・差	+12	104%	104%	▲1.0	89%	▲20.2	
		平年比・差	+14	102%	110%	▲1.6	92%	▲18.5	
乾田 直播	小牛田 (北浦)	萌えみのり	本年値	4月28日	68.0	487.8	10.2	43.9	1.8

ひとめぼれは、6月下旬以降草丈・茎数が平年値を上回っていますが、徐々に平年との差は小さくなっています。葉色は平年値をかなり下回っています。

幼穂長は約17cmに達しており、今後予報通りの気温の推移であれば、7月26日頃出穂すると予想されます。(昨年の出穂期は7月27日)

今後予報通りの気温の推移であれば、つや姫は8月4日頃の出穂と予測されます。

## 3. 今後の管理について

今後も高温が続く予報です。登熟期の高温障害の軽減のため、葉色の低下が見られるほ場では、積極的に追肥を行いましょう。追肥晩限が近づいています！！

### (1)今後の生育ステージについて

表2 生育ステージの予測値(7月19日現在)

移植日	出穂期
5月1日	7/21~7/23
5月5日	7/23~7/25
5月10日	7/25~7/28
5月15日	7/27~8/1
5月20日	7/31~8/3

・今後予報通りの気温の推移であれば、表2及び管内の田植盛期から、7月27日前後が管内出穂盛期と予測されます。(R5年:7月28日、平年:8月1日)

・平年より早まる予測ですので、防除など今後の作業の準備を早めにすすめましよう。

※主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)と7月17日発表の気象庁1か月予報気温を用いて予測。

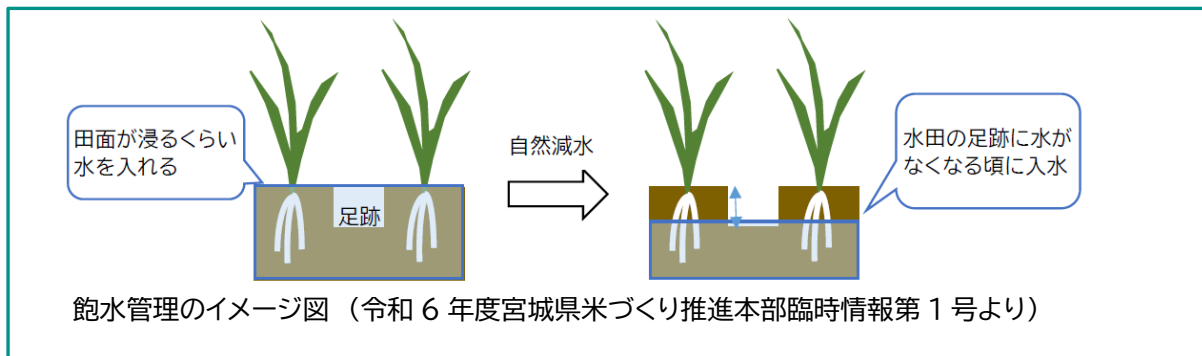
## (2)水管理

出穂前後は稲が水を必要とする時期で、この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ、収量・品質に影響します。基本の水管理は、出穂 10 日後までは浅水管理、その後出穂 30 日後程度までは間断灌水(湛水と落水を数日おきに繰り返す)します。

### <高温時の水管理>

高温時の水管理方法として「昼間深水・夜間落水管理」などがありますが、用水が限られる場合に湛水状態を続けてしまうと、夜間の水温が高くなり稲体を消耗させてしまいます。

用水が限られる場合には、稲体の夜温を下げやすく、根の活力を維持できる「飽水管理」が有効です。



高温時は、早期落水が白未熟米の発生を助長するため、出穂後 30 日程度まで飽水管理を続けます。

## (3)追肥

表3、4を参考に早めに行いましょう。

表3 減数分裂期の生育量の目安と追肥量

品種	減数分裂期(幼穂長3~12cm)			
	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	追肥量 (標準) (窒素成分) (kg/10a)
ひとめぼれ	66~69	450~500	35~37	1.0
まなむすめ	-	500~550	36~38	-
ササニシキ	-	550~580	32~34	1.0~1.5
だて正夢	76~82	380~420	37~39	2.0
金のいぶき	80~85	490~540	30~32	1.0
こがねもち	-	420~470	33~35	1.0

表4 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化
幼穂形成期	○	◎	○	
減数分裂期		○	◎	◎

**出穂後の高温障害の軽減には、葉色の維持が大変重要です！！**

今後高温が続く予報です。追肥晩限は近づいていますが、過繁茂でない場合は、できる限り追肥を行いましょう。高温登熟の場合は、出穂期頃の追肥でも、白未熟米の抑制効果があります。

#### (4)病害虫防除

(発生量等の情報は、県病害虫防除所注意報第1号(7/19発表)または発生予察第5号(7/8発表)より)

##### ①いもち病 発生時期: 平年並み(全般発生期 7月第3半旬) 発生量: 平年並

鹿島台アメダスの観測で6月24日、7月15日に感染好適日が出ています。

※感染好適条件: 葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間 10時間以上、平均気温 15~25℃、前5日間の平均気温 20~25℃)が出現した日。

上位葉の葉いもちが穂いもちの発生源になりますので、ほ場を観察し、病斑を発見したら直ちに防除を行いましょう。



進行型病斑

停滞型病斑

褐点型病斑

図1 いもち病の病斑

穂いもちは、発病してからの防除の効果が劣るので、金のいぎき、萌えみのり等いもち病に弱い品種のほ場や、葉色の濃いほ場では、特に穂ばらみ期の予防防除に努めましょう。

##### ②斑点米カメムシ類 発生時期: 早い(第2世代成虫発生盛期: 8月第2半旬) 発生量: 多

7月中旬の県病害虫防除所の調査において、周辺草地、本田ともすくいとり虫数が多い状況です!! 基本対策の徹底を!!

##### 【水田の管理】

水田畦畔の草刈りは水稻の出穂 10 日前までに行いましょう。

すでに晩限を迎えていることから、今後は原則として草刈りは行わず、やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直ちに水田への薬剤防除を実施してください!

##### 【水田の薬剤防除】

- ① 基本の防除体系: 1 回目は穂揃期、2 回目は穂揃期の 7~10 日後に実施しましょう。
- ② イヌホタルイ発生水田の場合: 1 回目の防除時期を早めましょう。1 回目は出穂始~穂揃期に、2 回目は穂揃期の 7~10 日後に実施しましょう。

##### ③紋枯病 発生量: やや多

高温多湿が発生を助長するとされており、長期予報では発生しやすい気象条件となることが予想されています。また、昨年発生したほ場では伝染源が残っているため発生しやすくなります。昨年の多発ほ場などでは必要に応じ薬剤防除を行いましょう。

紋枯病の要防除水準(収量5%減)

穂ばらみ期の発病株率

○ひとめぼれ: 18%      ○ササニシキ: 10%

#### ④イネツトムシ(イチモンジセセリ)

主に直播栽培において、多発した場合減収要因となります。

防除適期:第 2 世代若齢幼虫発生盛期

(7 月下旬~8 月上旬)

防除水準:1株当たり ツトが 0.5 個以上

※気がついた時には、殺虫剤の効果が出にくい中齢~老齢幼虫になっていることがあります。  
若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように！



図2 イチモンジセセリの成虫(右上)、幼虫(左)、ツト(右下)

(出典:宮城の稲作指導指針)

防除薬剤は下記の宮城県農作物病害虫・雑草防除指針サイトからお調べいただけます。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/miyagi>

※必ず最新の登録情報をご確認ください。

#### 7月18日 仙台管区气象台発表 東北地方太平洋側1か月予報(7/20~8/19)

【気温】 10 10 80

【降水量】 20 40 40

【日照時間】 40 30 30

凡例 ■低い(少ない) ■ 平年並 ■高い(多い)

・気温は、特に期間の前半が高い予報となっています。

・降水量はやや多く、日照時間は平年並みからやや少ない予報です。

#### 熱中症対策強化期間中！！(5月1日~9月30日)

~熱中症予防のポイント~

- 暑さを避ける
- こまめな休憩と水分補給
- 単独作業は避ける
- 熱中症アイテムの活用

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



(図の出典:農林水産省熱中症対策パンフレット)

~無事に家に帰るまでが農作業です~